

## 12年目研修受講後の小学校における読書活動の展開

高山市立北小学校 原 田 祐 之  
岐阜大学 伊 東 英

### 1. はじめに

平成16年度の12年目研修において、伊東が担当するキャリアアップ・フィールド：「総合的学習の時間」、コース名：「異文化理解と言語教育」を原田が受講した。当時、原田は岐阜大学大学院教育学研究科カリキュラム開発専攻に在籍し、そこで「学校教育における読書活動の推進に関する研究」というテーマで研究を進めていたこともあり、読書活動の推進により異文化理解が深まり、ALTによる英語活動の時間をこれまで以上に有効に活用できる可能性を追究した「読書活動を通じた異文化理解教育」という研修レポートを作成した。

この大学院で過ごした2年間と12年目研修を通して、原田は「子どもたちの読書活動の推進」の重要性を確信し、その後も学校現場において実践を進めていった。以下において、原田が企画実践した高山市立山王小学校での平成17、18年度、ならびに高山市立北小学校での19、20年度の読書活動の取り組みについて報告と考察を行うことにする。

### 2. 山王小学校でのその後の実践

#### 2. 1. 朝読書の設定

平成16年度の実践により、朝読書を行うことで子どもたちの本との出会いが広がり、読書に対する姿勢が積極的になってきた実態が見えてきた。また、朝読書の導入により、それ以前よりも読書量（読書冊数）が確実に増加した実態も明らかとなった。さらに、読書を通して集中力や書く力が身につくこと、基礎的な学力の向上を感じる子どもも増えてきたことがアンケート調査や日頃の授業実践から分かった。

これらの実態を次年度の方針を検討する職員会に報告し、それまでの私の担当学年のみで行っていた朝読書の活動を一斉活動として全校的に実施できるよう働きかけたところ、同僚の先生方に実績を認めていただくことができ、平成17年度より、全校的なカリキュラムとして、毎日の朝の10分間読書が位置付くこととなった。これは私が転勤した現在でも山王小学校で実践されている活動として着実に根付いている。

#### 2. 2. 読み聞かせの会の発足

全校的な朝の読書が定着してきて、毎朝、子どもたちが静かに読書を行う生活がしばらく続くと、その効果をいち早く認め、受け入れてくれたのは、保護者であった。

17年度の11月、保護者対象に「家庭での子どもの読書に対する姿勢の変化について」のアンケートを採った。その中で「ご家庭での子どもさんの読書量（マンガ・雑誌をのぞく）は増えてきた

と思われませんか。」という質問に対して、42%の人が「とても増えた」「少しは増えた」と答えた。また、「朝読書の時間に読んでいる本について、ご家庭で話題になったことがありますか。」という質問に対しては、50%の人が「よくある」「ある」と答えた。

およそ半年間、朝読書の取り組んだことで、全校の約半分の保護者が、自分の子どもが以前より読書量が増えたと感じたり、家庭で子どもの読んでいる本について話題になったりしていることがわかった。改めて、朝の10分間読書の取り組みが与える影響の大きさを感じる結果であった。

さらに、アンケートの中で「ご家庭で、子どもさんの読書に対する姿が変わってきたところがあれば、ご自由にお書き下さい。」と自由記述でお願いしたところ、低・中学年からは「誕生日に物語の本を買ってくれと言われて驚いた」や「ゲームより読書の時間が増えた」、「テレビ消して、と言われた」、「友だちや図書館の先生のお薦めの本を借りてくるようになった。」など、読書に対する興味・関心が高まってきたことを感じる意見があった。また、高学年からは「いろいろな分野の本を読むようになった。」、「大人向けのむずかしい本も読むようになった。」、「小説の深さ、面白さを理解している。」、「内容で選んで本を借りるようになった。」など、読書能力の発達段階における選択的多読期の「自分の必要性に合わせて、読書材を適切に選択することができるようになる」という特徴に沿った傾向が見られる意見があった。(本稿末尾の資料1参照)

これらのことから、学校のみならず、家庭でも子どもたちの読書をする時間は確実に増えてきて、効果が現れてきたことがわかった。

18年度には、PTAの母親委員会が動き出し、朝読書の時間を使って、読み聞かせの活動を行いたいという提案をもらった。19年度より正式に、PTAによる週に1回の読み聞かせが行われることが決定した。

私は残念ながら、18年度をもって山王小学校を転勤することとなるが、その後も山王小学校では、読み聞かせ活動が続けられたり、学級文庫の充実のために予算がつくようになったりと読書活動の推進に引き続き力を入れてもらっているようである。

### 3. 北小学校での実践

#### 3. 1. 低学年(2年生)での読書活動の推進の様子

北小学校に転勤すると、2年生を担当することとなった。私にとって初めての低学年の担任ということで、とまどうことも多かったが、朝の読書活動については、自信を持って行うことができた。

小学2年生という時期が読書能力の発達段階において、読書の習慣がつき始め、文字で表された場面や情景をイメージすることができるようになってくる初歩読書期の読書習慣形成期に当たることを考え、読み聞かせと一人読みの時間の両方を積極的に取り入れた、高学年の場合とは異なる読書活動を企画した。

北小学校の朝の活動時間「ミニスタ」の時間は学級裁量で行われており、どの担任も計算や漢字練習など日替わりでメニューを組んで、そのうち週1回は読書活動を行っているようであったが、私は年間を通して、この朝の時間をすべて読書に充て、月・火は担任による読み聞かせ、水・木・(二学期は金も)は一人読書の時間としてきた。その結果、一学期中頃には、子どもたちは2年生ながらも自分から進んで本を選び、静かに読み進めていくことが十分に身に付いてきた。

また、教室の中に「どくしょれっしゃ」という掲示物を位置付け、読み聞かせをしてもらったり、一人で読んだりした本の名前をカードに書いて次々に掲示していく活動を行った。子どもたちは、どんどんカードが増えていくことで、列車がつながっていくことが楽しく、本を読み終えるたびに喜んでカードを貼りに行っていた。二学期までに読了した図書の冊数が当初の予想を大幅に上回って、30人の学級全員で1500冊を超え、さらに、三学期には2000冊を超えるまでとなり、子どもたちの大きな誇りとなった。



図1 どくしょれっしゃの掲示



図2 2000冊突破を記念して

### 3. 2. 高学年での読書活動の推進の様子

#### 3. 2. 1. 図書委員会によるブックトークの実践

平成20年度は5年生を担当することになり、引き続き図書委員会を担当した。昨年度の図書委員会の反省は、図書当番での貸し出し冊数の集計などの常時活動が主体で、読書推進のための創造的な活動がなかなか定着しなかったことであった。図書館祭りというキャンペーンが毎年、春と秋に行われている様子だったが、その内容は2冊貸し出し券が当たるくじびきや貸し出しビンゴが中心であった。そこで本の紹介や学校図書館での読み聞かせ、ブックトークなどを提案し

てみても、子どもたちがやったことのない活動に抵抗を感じてか、なかなか受け入れられなかった。

そこで、平成20年度は、4月当初に年間活動計画を立てるときから図書館祭りの中でのブックトークを位置付けて指導していくことにした。

まず、図書館司書の方をお願いして、ブックトークの見本を見せてもらい、子どもたちがイメージを持てるようにした。テーマの決め方、本の選び方、紹介の仕方、プログラムに書く内容などを実際に目で見ることができたことで、子どもたちの関心は高くなり、「ぜひ自分たちもやってみたい。」という声があがるようになった。そこから、子どもたちによる自主的なテーマ選び、本選びや原稿書きなどのこれまでにはなかった委員会活動が始まった。

7月の第1週に行われた図書館祭りでは、初めての委員会児童によるブックトークが行われた。子どもたちは緊張しながらも、テーマに沿って上手に本を紹介することができていた。

図書館に集まった子どもたちも、初めての活動にたいへんな興味を持ち、低学年から高学年まで熱心にブックトークを聞いていた。紹介された本がその後、あっという間に借り出されていく様子を見て、図書委員の子どもたちも非常に満足感を感じていた様子であった。

今年の秋の図書館祭りは、校舎の改修時期に重なって、行われなかったが、子どもたちは、新しい活動が入ってきたことで、委員会による読書の推進活動の意識が高まってきたと言える。



図3 図書委員会児童によるブックトーク (1)



図4 図書委員会児童によるブックトーク (2)

## 3. 2. 2. 読書活動と読解力の関係に関する調査

自分が担当している5年4組を対象に、朝読書や昼休みなど学校生活以外での読書活動の様子についてアンケートを採った。これは、家庭での読書活動と平成20年度岐阜県学力状況調査の結果との比較から、読書活動と読解力の関係を見てみるものである。

		よく あてはまる (7冊以上)	少し あてはまる (4～6冊)	あまり あてはまらない (1～3冊)	まったく あてはまらない (0冊)
1	家で、時間を見つけて読書（マンガ・雑誌・教科書をのぞく）をしている。	10	14	5	2
2	家には本がたくさんある。	18	6	6	0
3	家の人が読書（マンガ・雑誌をのぞく）をしているところを見る。	8	15	6	2
4	朝読書の時間以外にも、自分から進んで読書することが、5年生になって去年より増えた。	11	13	4	3
5	あなたは、この11月から12月にかけての2ヶ月間に、何さつくらい本を読みましたか。	16	11	4	0
6	あなたは、本を読むことが好きですか。	14	15	2	0

図5 読書活動アンケート結果

まず、このアンケート結果を見てみると、どの項目においても、「よくあてはまる」「少しあてはまる」と答えた児童の割合が多い。つまり、多くの子どもが、家庭でも読書活動を積極的に行い、読書量も増えていることがわかる。

ここでは、個人レベルでのアンケートと学力状況調査の結果の比較を行うことにした。

平成20年度の学力状況調査の「読む能力」を問う問題は4問あった。そこで、正当数が4問中3問または4問（75～100%）だった児童とアンケートの回答を比較した。また、正当数が4問中0問または1問（0～25%）だった児童とアンケートの結果を比較してみた。

「家で、時間を見つけて読書（マンガ・雑誌・教科書をのぞく）をしている。」という質問に対して、「よくあてはまる」と答えた児童10名のうち、正答率が高かった児童は8名（80%）、正答率の低かった児童は2名（20%）であった。「すこしあてはまる」と答えた児童14名のうち、正答率の高かった児童は12名（86%）、正答率の低かった児童は2名（14%）であった。さらに、「あまりあてはまらない」と答えた児童5名のうち、正答率の高かった児童は4名（80%）、正答率の低かった児童は1名（20%）であった。「まったくあてはまらない」と答えた児童2名のうち、正答率の高かった児童は2名（100%）、正答率の低かった児童は0名（0%）であった。

「家には本がたくさんある。」という質問に対して、「よくあてはまる」と答えた児童18名のうち、正答率が高かった児童は17名（94%）、正答率の低かった児童は1名（6%）であった。「すこしあてはまる」と答えた児童6名のうち、正答率の高かった児童は6名（100%）、正答率の低かった

児童は0名(0%)であった。さらに、「あまりあてはまらない」と答えた児童6名のうち、正答率の高かった児童は4名(67%)、正答率の低かった児童は1名(17%)であった。

「家の人が読書(マンガ・雑誌をのぞく)をしているところを見る。」という質問に対して、「よくあてはまる」と答えた児童8名のうち、正答率が高かった児童は7名(88%)、正答率の低かった児童は0名(0%)であった。「すこしあてはまる」と答えた児童15名のうち、正答率の高かった児童は13名(87%)、正答率の低かった児童は0名(0%)であった。さらに、「あまりあてはまらない」と答えた児童6名のうち、正答率の高かった児童は5名(83%)、正答率の低かった児童は1名(17%)であった。「まったくあてはまらない」と答えた児童2名のうち、正答率の高かった児童は2名(100%)、正答率の低かった児童は0名(0%)であった。

「朝読書の時間以外にも、自分から進んで読書をすることが、5年生になって去年より増えた。」という質問に対して、「よくあてはまる」と答えた児童11名のうち、正答率が高かった児童は10名(91%)、正答率の低かった児童は1名(9%)であった。「すこしあてはまる」と答えた児童13名のうち、正答率の高かった児童は10名(77%)、正答率の低かった児童は0名(0%)であった。さらに、「あまりあてはまらない」と答えた児童4名のうち、正答率の高かった児童は4名(100%)、正答率の低かった児童は0名(0%)であった。「まったくあてはまらない」と答えた児童3名のうち、正答率の高かった児童は2名(67%)、正答率の低かった児童は0名(0%)であった。

「あなたは、この11月から12月にかけての2ヶ月間に、何さつくらい本を読みましたか。」という質問に対して、「7冊以上」と答えた児童16名のうち、正答率が高かった児童は13名(81%)、正答率の低かった児童は0名(0%)であった。「4～6冊」と答えた児童11名のうち、正答率の高かった児童は10名(91%)、正答率の低かった児童は0名(0%)であった。さらに、「1～3冊」と答えた児童4名のうち、正答率の高かった児童は3名(75%)、正答率の低かった児童は1名(25%)であった。

「あなたは、本を読むことが好きですか。」という質問に対して、「よくあてはまる」と答えた児童14名のうち、正答率が高かった児童は13名(93%)、正答率の低かった児童は1名(7%)であった。「すこしあてはまる」と答えた児童15名のうち、正答率の高かった児童は12名(80%)、正答率の低かった児童は0名(0%)であった。さらに、「あまりあてはまらない」と答えた児童2名のうち、正答率の高かった児童は2名(100%)、正答率の低かった児童は0名(0%)であった。

「よくあてはまる」と答えた児童の中で、正答率が高かった児童の割合が90%を超えていたのは、「家には本がたくさんある。」「朝読書の時間以外にも、自分から進んで読書をすることが、5年生になって去年より増えた。」「あなたは、本を読むことが好きですか。」の3項目であり、他の3つの項目も正答率が高かった児童の割合が80%を超えていた。この結果から考察すると、家にもたくさん本があり、読書が好きで読書量が増えている子は、読解力も高いということが言える。

一方で、「まったくあてはまらない」と答えた児童の正答率も高いことから、家庭での読書量だけが読解力と関係があるわけではないということも言える。

今回、調査をした学力状況調査の設問が4問しかなかったため、細かいところまでとらえ切れていないが、こうした調査を継続していくことで、読書活動と読解力の関係を見ていくことができると思われる。

#### 4. 成果と課題

まず、朝読書の時間を設定し、毎日根気よく読書を進めていくことで、子どもたちが読書活動に対して大変意欲的に取り組み、その結果として読書量も増えてくるという事実を毎年多くの実例で確認できたことが、何よりの成果であった。

また、朝読書の時間が存在することによって、その後の朝の会がとても落ち着いた状態で行われ、学校での1日が静かに始まっていくことや、国語をはじめとした各教科の学習においても、子どもたちの読解力の向上が読書習慣と密接に関係していることが事実として把握できたことも大きな効果の一つであると思われる。

特に北小学校に異動してから、初めての低学年担任で不安を感じながらの「どくしょれっしゃ」の取り組みに着手したが、2年生の子どもたちが、読書を学級の宝としてとらえて読書に励み、学校で一番本を読む学級という姿が定着したことが本当にうれしかったし、自信となった。

さらに、保護者から「家でも本を読むことが増えて、とても喜んでいきます。」という励ましの言葉をいただいたり、子どもからも「先生と同じで、私も本が好きだ。」という言葉が直接聞いたりするたびに、「読書活動の推進という取り組みを続けて本当によかった」と感じている。

課題としては、朝読書の時間の確保以外での読書活動の推進である。今年度、初めて図書委員会でブックトークを行ったが、さらに、子どもたちに体験を積ませて紹介する側も聞く側も、本選びが上手になっていくよう仕組んでいく必要がある。また、もっと多くの活動を取り入れて、読書の魅力を伝える努力もしなくてはならないだろう。

もう一つの課題としては、どの担任のどの学級でも確実にできる、全校の読書指導カリキュラムの作成である。時間を確保するだけでは担任の裁量に差が出てくるため、明確な読書年間指導計画を作成し、計画的に継続した取り組みができる全校的に統一された体制を作っていかなければいけないと考えている。

12年目研修を終えてから4年が経った。この4年間、12年目研修と大学院で学んだ読書活動の意義や方法論を踏まえて、小学校の現場において継続的に読書活動の推進に取り組むことができたことは幸せである。つい、毎日の多忙な日常に流されて生活してしまいがちだが、教員生活の節目、節目にはこうした研修を行い、学校という教育の場で何ができるのかを改めて見つめ直していく機会を持つことが、本当に大切だということを感じている。

資料1 平成17年度保護者アンケート「家庭での子どもの読書に対する姿勢の変化について」  
の自由記述の詳細

質問： ご家庭で、子どもさんの読書に対する姿が変わってきたところがあれば、ご自由にお書き下さい。		
学年	評価するコメント	その他のコメント
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の本をよく借りてくる。</li> <li>・音読がつまらず読める。</li> <li>・むずかしい字も質問してきて努力している。</li> <li>・土日に1人で読んでいます。</li> <li>・物語が増えた。絵本以外の本も読めるようになった。</li> <li>・一人で読めるようになった。時間が増えた。</li> <li>・自分にあった本を選べるようになった。</li> <li>・家族で高山図書館に行くようになった。</li> <li>・読み聞かせに興味を持つ。</li> <li>・読んだ後おもしろかったところを教えてくれる。</li> <li>・誕生日プレゼントに本が欲しいと言ったので驚いた。</li> <li>・マンガ、ゲームの本ばかり読む。</li> <li>・いっしょに読む時間が持てない。</li> <li>・マンガが多くなった。"</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンガ、ゲームの本ばかり読む。</li> <li>・いっしょに読む時間が持てない。</li> <li>・マンガが多くなった。"</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で読めるようになった。</li> <li>・市の図書館に行きたがる。</li> <li>・おもしろかったものを勧めてくれる。</li> <li>・物語が増えてきた。</li> <li>・弟や妹に読んであげたり、紹介するようになった。</li> <li>・厚い本も読めるようになった。</li> <li>・本選びを考えるようになった。</li> <li>・読み聞かせが好きである。</li> <li>・親に内容を話してくれる。</li> <li>・ゲームより本を読む方が増えてきた。</li> <li>・人物、歴史に興味が出てきた。</li> <li>・親も本を読む時間が増えた。</li> <li>・「テレビを消して」と言うようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校で読むから家では読まない」と言って読まなくなった。</li> <li>・友だちがどんな本を読んでいるか分かるといい。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の始まりに落ち着いた時間があるのはよい。</li> <li>・朝読書のことで親子の会話ができる。</li> <li>・音読がうまくなった。スピードが速くなった。</li> <li>・寝る前に読書するようになった。</li> <li>・興味の幅が広がった。</li> <li>・兄弟で本の紹介するようになった。</li> <li>・読み聞かせをしようと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんなジャンルを読んでほしい。</li> </ul>



12年目研修受講後の小学校における読書活動の展開

4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本屋で小説をほしがるようになった。</li> <li>・図書館で本を借りるようになった。</li> <li>・ほんの少し本に興味が出てきた。</li> <li>・本を読むスピードが速くなった。</li> <li>・長編の本を読破して自信を持ち意欲につながっている。</li> <li>・友だちや図書の先生のお薦めの本を借りてくるようになった。</li> <li>・妹に読んであげている。読んだ本を薦めてくれる。</li> <li>・考えながら本を選ぶ楽しさをおぼえていつている。</li> <li>・楽しいと言っている。</li> <li>・本好きになっていると実感できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・字を読むのが嫌いである。</li> <li>・マンガは読むがほかの本は読まない。</li> <li>・子どもとゆっくり本を読む時間がない。</li> <li>・音読を勧めても少しも読まないのこまる。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンガを読む量が減ってきた。</li> <li>・読書が好きになった。楽しいと言っている。</li> <li>・本について説明してくれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を読みとる力がついていない。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然な形で読み出した。読む時間が増えた。</li> <li>・いろいろな分野の本を読むようになった。</li> <li>・大人向けのむずかしい本も読むようになった。</li> <li>・「本てけっこうおもしろい」と言っていた。</li> <li>・「テレビを消して」と言ってテレビを見ない日がある。</li> <li>・表現力が豊かになった。</li> <li>・市の図書館に行くようになった。</li> <li>・小説の深さ、面白さを理解している。</li> <li>・感想などを話してくれる。</li> <li>・今までになかった本の話をするこことが出てきた。</li> <li>・薦められ親も読んでみた。</li> <li>・親も子どもの前で本を読むように努めたいと思った。</li> <li>・内容で選んで本を借りるようになった。</li> <li>・図書の先生に情報を聞いてくるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校で読むから家では読まない」と言って言い訳に使っている。</li> <li>・本を読む楽しさや興味がわくとよい。</li> <li>・図書館便りや委員会活動などでお薦めの本を紹介してもらえるといい。</li> </ul>
夢学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜寝る前の読書が習慣になった。</li> <li>・字が読めるようになった。</li> </ul>	